

和泉葛城山の昆虫（2011年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

天然のブナ林を有する和泉葛城山の山頂付近の昆虫相の変化を記録にとどめるため、2008年度に予備的な調査を開始し、2009年と2010年には4月から12月まで毎月1回の割合で定期的な調査を行った（岩崎、2010、2011、2012）。これまでの調査で、大阪府レッドデータブック（大阪府、2000）で準絶滅危惧に指定されているムカシトンボ、ヒトコブササキリモドキ、エゾゼミ、テングオオヨコバイ、オニクワガタ、セダカテントウダマシが確認され、山地性の種として、テングアワフキ、オオトビサシガメ、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、ツノアオカメムシ、ミヤマカメムシ、トホシカメムシ、シダクロスズメバチなどが確認されている。また、和歌山県側の草原に由来する「平地の草原でも見られる普通種」も和泉葛城山山頂付近の昆虫相の構成要素となっている。2011年度も昆虫相全般を対象にした調査を継続して行った。

調査方法

2011年4月から12月にかけて、毎月1回、合計9回、雨でない日を選んで調査を行った。和泉葛城山山頂付近（標高820～858m：メッシュコード51354314-15：図1）を約3時間かけて歩き回り、目視か鳴き声によって種の確認を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、自然遊学館に標本のない種および近年に記録のない種を採集し、当館の所蔵標本とした。



図1. 山頂付近のブナ林 2011.4.14

結果および考察

4月から12月にかけての計9回の調査で確認された昆虫は12目100科248種、目ごとの種数は、トンボ目4種、バッタ目26種、カマキリ目1種、ナナフシ目2種、ハサミムシ目1種、カメムシ目42種、アミメカゲロウ目2種、コウチュウ目73種、シリアゲムシ目2種、ハエ目23種、チョウ目45種（うちチョウ類26種）、ハチ目27種であった（表1）。以下、主な目の結果について、簡単な解説を行った。

トンボ目

成虫で越冬するオツネントンボが11月8日に確認された（図2）。貝塚市内ではこれまでに森と馬場で記録があったが、和泉葛城山山頂付近では初めてである。オツネントンボは羽化場所の水域から離れて越冬することもあるが、山頂付近が越冬場所になっているのか移動中の個体であったのかは、今回のデータだけからは不明である。

表1-1. 和泉葛城山山頂付近において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト1

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月 14日	5月 19日	6月 9日	7月 6日	8月 4日	9月 15日	10月 18日	11月 8日	12月 7日	
トンボ目	アオイトトンボ科	オツネトンボ	<i>Sympetma paedisca</i>								○		
	ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>										
	オニヤンマ科	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>						○				
トンボ科	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>						○	○				
	ハネナシコロギス	<i>Nippaonistroyer testaceus</i>				△			△				
バッタ目	コロギス科	クチキウマ属	<i>Anoplophilus</i> sp.						○				
	カマドウマ科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>			△			鳴				
バッタ目	キリギリス科	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>						鳴	鳴			
		ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>			△							
	ツユムシ科	ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>									○	
		ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>							○			
		エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>						○				
		ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>						○				
	ササキリモドキ科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>						△	○	○		
		ヒトコササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis kongozanensis</i>							○	○		
	バッタ目	コオロギ科	-(幼虫)	gen. et sp.									△
			ヒメツユムシ	<i>Leptotetura albicornis</i>									
マツムシ科		モリオカメオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○			
		ハラオカメオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>									○	
ヒバリモドキ科		カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>							○	鳴		
		マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>									鳴	鳴
ヒシバッタ科		シハスズ	<i>Polionemobius mikado</i>							鳴	鳴		
		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>									鳴	
バッタ科		モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>				○	○					
		ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>						○				○
	フキバッタ属	<i>Parapodisma</i> sp.			△	△	△						
	ナキイナゴ	<i>Mongolotetrix japonicus</i>				○	○	○					
	セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>							○				
	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>							○				
	ヒロハネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>							○	○			
	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>					△	△	○	△	△		
	エダナナフシ	<i>Phraortes ilepidus</i>			△	△	△	○	○				
	ニホントビナナフシ	<i>Micadna phluctainoides</i>						△					
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	コフハサミムシ	<i>Anechura harmandi</i>				○						
カメシ目	セミ科	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>									鳴・羽化殻	
		ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>									鳴	
		ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>						○				
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>									鳴	
		ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>						○				
		ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>				鳴	鳴	鳴				
		チツチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>									鳴	
		アワフキムシ科	ミヤマアワフキ	<i>Peuceptylus nigroscutellatus</i>	○	○					○	○	○
		ヒメシロアワフキ	<i>Aphrophora obliqua</i>						○				
		コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ	<i>Euscartopsis assimilis</i>						○			
ヨコバイ科	オビヒメヨコバイ	<i>Naratettix zonatus</i>	○							○	○		
オスキヨコバイ	<i>Onukia onukii</i>							○	○				
ホシヨコバイ属	<i>Xestocephalus</i> sp.							○					
ヒシウンカ科	ブチヒシウンカ	<i>Trirhacus</i> sp.						○					
ハネナガウンカ科	クロフハネナガウンカ	<i>Mysidioides sapporoensis</i>											
キジラミ科	カエデキジラミ	<i>Psylla japonica</i>						○	○				
	ベニキジラミ	<i>Psylla coccinea</i>								ゴール			
アブラムシ科	モミジニタイケアブラムシ	<i>Periphyllus californiensis</i>			△	○							
セイヨウアザチビゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>							○					
サシガメ科	クビアカサシガメ	<i>Reduvius humeralis</i>							○				
	シマサシガメ	<i>Sphecanolestes impressicollis</i>					△	△					
	アカサシガメ	<i>Cydnoecoris russatus</i>						○					
	オトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>									○		
カスミカメシ科	ケブカカスミカメ	<i>Tingitum perlatum</i>						○					
グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>						○					
ツノカメシ科	セアカツノカメシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>						○	○	○	○		
エサキモンキツノカメシ	<i>Sastragala esakii</i>							○		○			
モンキツノカメシ	<i>Sastragala scutellata</i>								○	○			
ツチカメシ科	ヒメツヤツチカメシ	<i>Chilocoris piceus</i>						○					
	ミツボシツチカメシ	<i>Adomerus triguttulus</i>						○					
カメシ科	クサギカメシ	<i>Halyomorpha picus</i>										○	
	エゾアカカメシ	<i>Palomena angulosa</i>										○	
	チャバネアカカメシ	<i>Plautia crossota stali</i>										○	
	ツマジロカメシ	<i>Menida violacea</i>							○			○	
	トゲカメシ	<i>Carbula humerigera</i>						○	○				
	ウシカメシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>										○	
ナガカメシ科	コバネヒョウタンナガカメシ	<i>Togo hemipterus</i>						○					
ホソヘリカメシ科	ヒメクモヘリカメシ	<i>Paraplesius unicolor</i>						○	○	○			
ヘリカメシ科	オオヘリカメシ	<i>Molipteryx fuliginosa</i>						○	△				
オオツマキヘリカメシ	<i>Hygia lativentris</i>								○				
ハリカメシ	<i>Cletus rusticus</i>							○	○	○			
ヒメヘリカメシ科	アカヒメヘリカメシ	<i>Rhopalus maculatus</i>										○	
アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ホソバヒメカゲロウ	<i>Micromus multipunctatus</i>					○	○				
ヒロバカゲロウ科	カスリヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus nipponensis</i>										○	
ハンミョウ科	ニワハンミョウ	<i>Cicindela japana</i>										○	
オサムシ科	フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>							○				
コハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes lampros</i>											○	
ヤマトオサムシ	<i>Carabus yamato</i>								○				
ハネカクシ科	サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>										○	
	コアリガタハネカクシ	<i>Megalopaederus lewisi</i>							○	○	○	○	
	ハイロハネカクシ	<i>Eucibdelus japonicus</i>							○				
	シリアカデオキノコムシ	<i>Scaphidium rufopygum</i>										○	

表1-2. 和泉葛城山山頂付近において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト2

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月 14日	5月 19日	6月 9日	7月 6日	8月 4日	9月 15日	10月 18日	11月 8日	12月 7日
コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis</i>						○			
		スジクワガタ	<i>Macrodercas striatipennis</i>							○		
	コガネムシ科	スジコガネ	<i>Mimela testaceipes</i>					○				
		ヒメスジコガネ	<i>Mimela flavilabris</i>				○					
		チャイロコガネ属	<i>Sericania</i> sp.				○					
		コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i>						○			
ホソクシヒゲムシ科		ムネアカクシヒゲムシ	<i>Horatocera niponica</i>					○				
タマムシ科		クヨタマムシ	<i>Buprestis haemorrhoidalis japonensis</i>					○				
コメツキムシ科		アカハラクロコメツキ	<i>Ampepus hypogastricus hypogastricus</i>			○	○					
		シモフリコメツキ	<i>Actenicerus pruinosus</i>		○							
		タテジマカネコメツキ	<i>Limoniscus vittatus</i>		○							
		キバネホソコメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>		○							
		ヒゲコメツキ	<i>Pectocera fortunei</i>				○					
		トラフコメツキ	<i>Selatosomus onerosus</i>			○						
		クシコメツキ	<i>Melanotus legatus</i>			○						
		クロクシコメツキ	<i>Melanotus senilis</i>			○						
ベニボタル科		クシヒゲベニボタル	<i>Macrolycus flabellatus</i>		○	○						
		ヒンベニボタル	<i>Dictyoptera gorhami</i>	○	○							
		ホソベニボタル	<i>Mesolycus atrorufus</i>				○					
ホタル科		オオオハボタル	<i>Lucidina accensa</i>				○					
ジョウカイボン科		ジョウカイボン	<i>Athemus suturellus</i>			○						
		セボンジョウカイ	<i>Athemus vitellinus</i>		○							
		ミヤマクビボソジョウカイ	<i>Podabrus lictorius</i>		○		○					
ケシキスイ科		キイロセマルケシキスイ	<i>Cychramus dorsalis</i>			○				○	○	
		ヨソボシケシキスイ	<i>Librodor japonicus</i>						○			
ヒラタムシ科		クロムネキカフヒラタムシ	<i>Pediacus japonicus</i>	○								
オオキノコムシ科		カタモンオオキノコ	<i>Aulacochilus japonicus</i>					○				
テントウダマシ科		セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>						○			
テントウムシ科		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>			○						
		ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia muiri</i>							○		
		ハレヤヒメテントウ	<i>Pseudoscymnus hareja</i>					○				
キノコムシダマシ科		モンキナガクチコムシ	<i>Penthe japana</i>		○							
ゴミムシダマシ科		キマフリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i>					○				
		コマルキマフリ	<i>Elixota curva</i>					○				
		クロホシテントウゴミムシダマシ	<i>Derispia maculipennis</i>		○	○						
		クロツヤバネクチコムシ	<i>Hymenalia unicolor</i>				○					
		エグリゴミムシダマシ	<i>Uloma marseuli</i>					○				
		モンキゴミムシダマシ	<i>Diaperis lewisii lewisii</i>					○				
カミキリモドキ科		モモフトカミキリモドキ	<i>Oedemerona lucidicollis</i>		○							
		マダラカミキリモドキ	<i>Oncomerella venosa</i>				○					
アリモドキ科		アカホソアリモドキ	<i>Anthicus fugiens</i>		○	○						
カミキリムシ科		トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>				○					
		アトモンサビカミキリ	<i>Pterolophila granulata</i>		○							
ハムシ科		カッコウメダカカミキリ	<i>Stenomalus cleroides</i>			○						
		コフハムシ属	<i>Chlamisus</i> sp.				○					
		キクビアオハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>				○					
		イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>			○						
		ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>					○				
		ムナグロツヤハムシ	<i>Arthrotus niger</i>			○						
		ズグロキハムシ	<i>Gastrolinoides japonicus</i>	○	△							
		ヒゲナガウスバハムシ	<i>Stenoluperus nipponensis</i>			○						
		ツブノミハムシ	<i>Aophthona perminuta</i>	○								
		ヒゲナガリマルノミハムシ	<i>Hemipyxis plagioderoides</i>				○					
		フタイロセマルトビハムシ	<i>Aphthonomorpha collaris</i>				○		○	○	○	
ヒゲナガゾウムシ科		カオジロヒゲナガゾウムシ	<i>Sphinctrotropis laxus</i>						○			
オトシブミ科		カシリオトシブミ	<i>Euops politus</i>			○						
		ウスモンオトシブミ	<i>Apoderus balteatus</i>	○				○				
		ゴマダラオトシブミ	<i>Parolapoderus pardalis</i>				揺籃					
		オトシブミ	<i>Apoderus jeckelii</i>					○				
ゾウムシ科		リンゴフキゾウムシ	<i>Phyllobius armatus</i>		○							
		トゲアシゾウムシ	<i>Anosimus decoratus</i>					○				
		ツツゾウムシ属	<i>Carcilia</i> sp.					○				
		マツビゾウムシ	<i>Scythropus scutellaris</i>	○								
		ホホジロアシナガゾウムシ	<i>Mecysolobus erro</i>			○						
		シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus</i>				○					
シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	スカシシリアゲモドキ	<i>Panorpodes paradoxus</i>			○						
	ガガンボモドキ科	トガリバガガンボモドキ	<i>Bittacus mastrillii</i>			○						
ハエ目	シギアブ科	-	gen. et sp.			○						
	アブ科	ウシアブ	<i>Tabanus trigonus</i>					○				
	ムシヒキアブ科	ハラボソムシヒキ	<i>Dioctria nakanensis</i>				○					
		コムライシアブ	<i>Choerades komurai</i>				○					
		マガリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>				○	○				
		Neoitamus属	<i>Neoitamus</i> sp.				○					
オドリハエ科		ネウスオドリハエ	<i>Empis flavobasalis</i>		○							
		アカメセダカオドリハエ	<i>Syneches grandis</i>			○						
ハナアブ科		オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>					○	○			
		ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>			○	○					
		キイロナミホシヒラタアブ	<i>Syrphus vitripennis</i>				○	○				
		シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>					○				
		ホシヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>						○		○	
		マダラコシボノハナアブ	<i>Baccha maculata</i>					○				
		アシトハナアブ	<i>Helophilus virgatus</i>			○	○	○				
		クロヒラタアブ属	<i>Betasyrphus</i> sp.								○	
ヤセバエ科		ホシアシナガヤセバエ	<i>Styocladus appendiculatus</i>					○				
メバエ科		-	gen. et sp.									
ミバエ科		チャイロハススジハマダラミバエ	<i>Anomoia vulgaris</i>				○					
シマバエ科		ヒラヤマシマバエ	<i>Homoneura hirayamae</i>						○			

表1-3. 和泉葛城山山頂付近において2011年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト3

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月 14日	5月 19日	6月 9日	7月 6日	8月 4日	9月 15日	10月 18日	11月 8日	12月 7日
ハエ目	フンバエ科	ヒメフンバエ	<i>Scatophaga stercoraria</i>						○	○		
		クロバエ科	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i>							○	○
	ヤドリバエ科	シロオビハリバエ	<i>Trigonospila transvittata</i>			○						
チョウ目	アゲハチョウ科	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>		○	○	○	○				
		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>					○				
		キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>				○					
シロチョウ科	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>						○				
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>					○	○	○			
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>			○							
タテハチョウ科	キチョウ (キタキチョウ)	<i>Eurema mandarina</i>						○	○			
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>					○	○	○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○					
シジミチョウ科	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>			○	○	○	○				
	ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>						○				
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>								○	○	
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>								○		
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>								○		
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>	○		○							
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>					○	○				
	アサギマダラ	<i>Parantica sita niponica</i>					○		○			
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>			○							
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>		○		○					○	
セセリチョウ科	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>					○		○	○		
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						○				
	トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>					○					
ヒゲナガガ科	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica japonica</i>					○					
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>							○			
	コチャバネセセリ	<i>Thoresa varia</i>			○							
マダラガ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○				
	ウスベニヒゲナガ	<i>Nemophora staudingerella</i>			○							
	ミノウスバ	<i>Pryeria sinica</i>			△							
ツトガ科	タケノホソクロバ	<i>Artona martini</i>						○	△			
	マエアスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>						○				
シャクガ科	ナカオビアキナミシャク	<i>Nothoponia mediolineata</i>										○
	トビネオオエダシャク	<i>Phthonosema invenustarium</i>						○				
アゲハモドキ科	キンモンガ	<i>Phycostrophila melanargia</i>			○	○	○					
	ヒメヤマム	<i>Caligula jonasii jonasii</i>			△							
シャチホコガ科	オオミズアオ	<i>Actias aliena</i>						△				
	シャチホコガ	<i>Stauropus fagi persimilis</i>					△	△				
	モンクロナシャチホコ	<i>Phalera flavescens</i>					○					
ドクガ科	キドクガ	<i>Euproctis piperita</i>								△		
	ドクガ	<i>Euproctis subflava</i>					△					
	シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia albofascia</i>				△						
コブガ科	アカヒゲドクガ	<i>Calliteara lunulata</i>						△				
	リンゴドクガ	<i>Calliteara pseudabietis</i>							△			
	マエキリンガ	<i>Iragades nobilis</i>			○							
ヤガ科	ウスツマクチハ	<i>Dinumma deponens</i>						○				
	フクラスズメ	<i>Arcte coerulea</i>									○	
ハチ目	ハバチ科	スギナハバチ	<i>Delerus subfasciatus</i>			○						
		Monophadnoides属	<i>Monophadnoides sp.</i>		○							
タマバチ科	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>										
	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	<i>Campsomeris prismatica</i>						○	○		
スズメバチ科	オオアタオビドロバチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum</i>						○				
	キイロスズメバチ	<i>Vespa similima xanthoptera</i>								○		
アリ科	ホソアシナガバチ	<i>Parapolybia indica indica</i>							○			
	キボシアシナガバチ	<i>Polistes mandarinus</i>			○							
	ムネアカオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>			○			○				
	クロオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>			○	○	○	○	○			
	ウメマツオアリ	<i>Camponotus tokioensis</i>			○	○	○					
	クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ハヤシクロヤマアリ	<i>Formica hayashi</i>		○					○			
	クサアリモドキ	<i>Lasius spathepus</i>		○	○	○						
	トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>	○	○	○				○		○	
	ヒゲナガケアリ	<i>Lasius productus</i>							○	○		○
アナバチ科	アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>			○	○	○	○				
	アマアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>					○	○				
	ムネボソアリ	<i>Temnothorax congruus</i>							○			
	オオンワアリ	<i>Tetramorium bicarinatum</i>					○	○	○	○		
	ヤマトアシナガアリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>		○								
	ジガバチ属	<i>Ammophila sp.</i>					○					
	ヒメハナバチ属	<i>Andrena sp.</i>	○									
	クマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>		○			○					
	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>					○	○	○			
	クマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>							○			
コムルハナバチ	<i>Bombus ardens ardens</i>					○						

バッタ目

大阪府レッドデータブックの指定種としては、準絶滅危惧のセグロイナゴ(図3)が9月15日に、ヒトコブササキリモドキ(図4)が8月4日と9月15日に確認された。セグロイナゴはこれまで貝塚市内では蕎原での記録しかなく、和泉葛城山山頂付近では初めての記録となった。おそらく和歌山県側の草原由来のものであると考えられる。ヒトコブササキリモドキはブナ林内に生息している種で、2009年から3年連続で確認されていて、個体数も比較的多い。その他、山地性のエゾツユムシ(図5)が8月4日に確認され、1992年以来の同所での記録となった。

カメムシ目

大阪府レッドデータブックの指定種では、準絶滅危惧のエゾゼミの鳴き声が8月4日と9月15日に確認され、8月4日には羽化殻を採集した。エゾゼミは2008年から4年連続で確認されている。また山地性の種として、オオトビサシガメ、ツマジロカメムシ、エゾアオカメムシ(図6)、トゲカメムシが確認された。オオヘリカメムシは、自然遊学館の標本としては、2003年の当地での採集以来の記録である。

コウチュウ目

大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されているオニクワガタ(図7)が9月15日に、セダカテントウダマシ(図8)が9月15日に確認された。オニクワガタは2008年以来、セダカテントウダマシは2009年以降の確認となった。両種とも貝塚市内では和泉葛城山山頂付近のブナ林内でしか確認されていない。

シリアゲムシ目

6月9日に、山地性のトガリバガガンボモドキが確認された。貝塚市内でのシリアゲムシ目の記録はこれまでシリアゲムシ科に限られていたが、今回初めてガガンボモドキ科の記録が得られた。ガガンボモドキの仲間は、交尾の際にオスがメスに餌をプレゼントするという婚姻贈呈を行うことが知られている。

チョウ目

45種のうち、チョウ類が26種で、ガ類が19種であった。8月4日に確認されたホソバセセリ(図9)は、1993年以降の同所での確認となった。6月に幼虫で確認されたヒメヤママユ(図10)は大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されている。ウスヅマクチバはこれまで自然遊学館に標本がなかったものである。



図 2. オツネトンボ
2011. 11. 8



図 3. セグロイナゴ
2011. 9. 15



図 4. ヒトコブササキリモドキ
2011. 8. 4



図 5. エゾツユムシ
2011. 8. 4



図 6. エゾアオカメムシ
2011. 10. 18



図 7. オニクワガタ
2011. 9. 15



図 8. セダカテントウダマシ
2011. 9. 15



図 9. ホソバセゼリ
2011. 8. 4



図 10. ヒメヤママユ幼虫
2011. 6. 9

2008 年度から和泉葛城山山頂付近において昆虫の定期調査を行ってきた。2008 年度は 4 回しか調査をしていないので種数の比較はできないが、2009 年度には 4 月から 12 月まで 9 回の調査を行い 14 目 100 科 263 種、2010 年度も同様の調査を行い 13 目 93 科 235 種が確認された（岩崎（2012）では 92 科と報告したが、ヒロバカゲロウ科を数え忘れていた）。今回は 12 目 99 科 248 種が確認され、前 2 年と大差のない結果となった。その中で、各年の調査において確認された大阪府レッドデータブックの指定種、および山地性などの注目種を表 2 にまとめた。例えば、エゾゼミ、ヒメクサキリ、ハルゼミ、ツマジロカメムシのように 2008 年以來 4 年連続で確認されている種もあれば、カヤコオロギ、テングアワフキ、ハスジゾウムシのように 2008 年以來確認されていない種もある。年間の調査回数が 9 回では、確認されなかった種が本当に生息していないのか全く分からないが、調査に行ける回数は限られているので、次年度以降も継続して調査を行い、これらの種の生息の確認と新たな種の発見につとめたい。

表2. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2011年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種および注目種

項目	目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	
大阪府レッドリスト種 (準絶滅危惧)	トンボ目	ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○		
	バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis kongozanensis</i>		○	○	○	
		バッタ科	セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○	
	カメムシ目	セミ科	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	
		ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○		○		
	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○			○	
		テントウダマシ科	セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○		○	
	チョウ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Caligula jonasii jonasii</i>				○	
	注目種	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネントンボ	<i>Sympecma paedisca</i>				○
		トンボ科		ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○	
バッタ目		キリギリス科	ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○	
		ツユムシ科	エゾツユムシ	<i>Kuwavamaea sapporensis</i>				○	
マツムシ科			カヤコオロギ	<i>Euscyrtus japonicus</i>	○				
			ニホンビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○		○	
ナナフシ目		ナナフシ科	ニホンビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>	○	○	○	○	
カメムシ目		セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	
		アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○				
		サシガメ科	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	
		カメムシ科		ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○	
				エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○
			トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	
			ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	
			ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>		○			
			トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			
			ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i>			○		
コウチュウ目		クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformoratus</i>	○	○			
		ゾウムシ科	ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○				
シリアゲムシ目		ガガンボモドキ科	トガリバガガンボモドキ	<i>Bittacus maestrillii</i>				○	
ハチ目		スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespa shidai</i>	○	○			
		ミツバチ科	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>				○	

謝辞

ハバチ類標本の同定をしていただいた吉田浩史氏に謝意を表する。

引用文献

- 岩崎 拓 (2010) 和泉葛城山の昆虫 (2008 年度調査). 貝塚の自然 第 12 号 : 41-45.
 岩崎 拓 (2011) 和泉葛城山の昆虫 (2009 年度調査). 貝塚の自然 第 13 号 : 88-94.
 岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の昆虫 (2010 年度調査). 貝塚の自然 第 14 号 : 53-58.
 大阪府 (2000) 「大阪府における保護上重要な野生生物 -大阪府レッドデータブック-」. 442pp.

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板に、調査結果を速報として貼り出した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年4月）

2011年4月14日 天候：はれ 調査者1名

午後2時の気温が10.6℃と、下界よりだいたい4～5℃低く、肌寒い感じですが、それでもこの時期の寒暖の周期で言うと「暖」の部類に入ると思います。昆虫の活動時期はまだ先で、確認された種数は15種程度でした。



展望台～山頂



登山道Aコース



階段下から岸和田側へ

フナや他の木々はまだ葉をつけず、林内の見通しは良好です。半寄生性のヤドリギもこの時期にはよく見えます。その他、キブシの黄色い花がきれいでした。



ヤドリギ



キブシ

チョウ目 チョウ類1種

ヒオドシチョウの1種だけを確認しました。山頂の寒い冬を生き抜いてきた成虫です。後翅の痛み具合に、厳しい冬が忍ばれます。待望の春が来て、降り注ぐ陽光を全身で受け止めているところです。名前のヒオドシは武器の一部に由来するそうですが、文化が変わり伝えにくくなる一方です。



ヒオドシチョウ

その他

ミヤマアワフキ、オビヒメヨコバイ、コアリガタハネカクシ、ズグロキハムシ、ウスモンオトシブミといった常連種が確認されました。マツトビソウムシは、マツの新葉を摂食する種で、珍しいものではないのですが、これまで遊学館に標本はありませんでした。遊学館が所蔵する貝塚市の昆虫は2500種を越えましたが、まだまだ採集されていない「普通種」は残っています。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年5月）

2011年5月19日 天候：はれ 調査者1名

1ヶ月経つと一気に新葉の季節になりました。フナも新葉を広げて林内を心地よい風が吹き抜けます。確認される昆虫の数も一気に増えました。ホオジロやツツドリなどの鳴き声に混じってハルゼミが鳴いていました。

チョウ目 チョウ類2種

オナガアゲハ、ルリシジミの2種を確認しました。4月はヒオドシチョウの1種だけでした。山頂のチョウたちの季節はまだ早いようです。6月にはもっと種数が増えると思います。

カメムシ目

フチヒシウンカの写真を撮ることができました。翅の先まで1cmもない小さな虫です。背景に溶け込んでいました。遊学館に標本がないものとしてモジニタイケアブラムシを採集しました。



フチヒシウンカ

ハチ目

人目に触れる機会が多いのはムネアカオオアリです。木柵を這いまわっていて、中には写真のように兵アリのように喧嘩しているものもいます。虫好きには兵アリも働きアリもすべてメスであることは承知のことですが、アリンこのオスとメスなんてどうでもいいという方も多いかもしれませんね。彼女たちは同種であっても違う巣に生まれれば敵になるのです。



ムネアカオオアリ

コウチュウ目

5月の山頂は、それぞれのグループの種数から判断して、コウチュウたちとアリを含むハチたちの世界と言えます。同定が難しいものは別にして、コウチュウ目17種、ハチ目10種を確認しました（全体では46種）。

その他（哺乳類）

調査の最後にヒミズの死体を発見しました。小さなモグラの仲間です。これまで遊学館の記録としては、大川、高野、千石、王子で死体の確認があったのですが、和泉葛城山山頂では初めてになりました。



ヒミズ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年6月）

2011年6月9日 天候：曇り/はれ 調査者1名

フナ林内では午後2時の気温が18.4℃ととても快適です。カッコウとツツドリなどの鳴き声が聞こえます。ハルゼミの鳴き声が先月より格段に増えました。ずっと鳴いているわけではなく、1匹が鳴くと周りの個体もつられて鳴くようです。

チョウ目 チョウ類6種

オナガアゲハ、モンシロチョウ、クロヒカゲ、ヒオドシチョウ、テングチョウ、コチャバナセセリの6種を確認しました。4月の1種、5月の2種から種数が増えてきました。クロヒカゲは飛んでいる時には黒っぽいですが、とまっている時に見える後翅のかすかな紫色は驚くべき美しさだと思います。美しさを隠している奥ゆかしさに心が惹かれます。ガでは、ヒメヤママユ、シロオビドクガ、ミノウスバの写真を撮ることができました。ヒメヤママユは大阪府のレッドリストで準絶滅危惧に指定されています。



クロヒカゲ



ヒメヤママユ幼虫

バッタ目 など

ナキイナゴが鳴き始めました。成虫を確認したのはモリヒシバッタとの2種です。ハネナシコロギス、ヤブキリ、ヒメギス、フキバッタの一種、カネタタキはまだ幼虫でした。ナナフシ目はエダナナフシの幼虫を確認しました。



モリヒシバッタ

コウチュウ目

遊学館に標本がないものとしてトラフコメツキとハイイロハネカクシを採集しました。イタドリの上ではカシルリオトシブミが目立つようになり、クリの葉にはゴマダラオトシブミの揺籃がつくられていました。



トラフコメツキ

その他

シリアゲムシ目のトガリバガガンボモドキを採集しました。遊学館のコレクションにはこれまでガガンボモドキ科はありませんでした。ハエ目のガガンボ科だと思って持ち帰ったのですが、翅が2枚ではなく、4枚であったので、ガガンボモドキの仲間だと分かりました。

付図1（左上） 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年4月）

付図2（右上） 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年5月）

付図3（左下） 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年7月）

2011年7月6日 天候：はれ 調査者1名

ブナ林内では午前11時の気温が24.2℃と麓よりも約4℃低く、汗ばむほどでは
ありません。ハルゼミの鳴き声が先月より減りました。ホタルブクロやオカトラノ
オの白い花が目立ちます。

チョウ目 チョウ類13種

オナガアゲハ、キアゲハ、スジグロシロチョウ、ミドリ
ヒョウモン、ツマグロヒョウモン、クロヒカゲ、サカハチ
チョウ、アサギマダラ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、トラ
フシジミ、ムラサキシジミの13種を確認しました。4月
の1種、5月の2種、6月の6種から種数が増えました。
ガではシャチホコガの若い幼虫の写真を撮ることができま
した。左が頭で中脚と後脚が長くなっています。一見アリ
のようにも見えますが、これをクモの歩脚のように振って
前進します。ガの幼虫の中でもかなり風変わりな奴です。



シャチホコガ幼虫

バッタ目 など

ナキイナゴが鳴いています。成虫を確認したのは、クチ
キウマ属の一種、モリヒシバッタとの3種です。クチキウ
マ属の一種はチビクチキウマかキンクチキウマのいずれ
かですが、産卵管のあるメス成虫でしか同定できません。
フキバッタとササキリモドキの間はまだ幼虫でこちらも
種までは分かりません。

その他、カマキリ目ではオオカマキリ幼虫、ナナフシ目
ではエダナナフシ幼虫、ハサミムシ目ではコバハサミムシ
を確認しました。



クチキウマ属の一種 (♂)



コバハサミムシ

ハエ目・ハチ目

ハエ目6種、ハチ目12種を確
認しましたが、採集してきた中
でも簡単には同定できないもの
が含まれています。



ナミハナアブ



コマルハナバチ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年8月）

2011年8月4日 天候：はれ後曇り 調査者1名

ブナ林内では午前12時の気温が24.3℃と麓よりは低かったのですが、湿度が高
く動くと汗が出ます。エゾゼミとヒグラシの鳴き声がよく聞こえました。植物では
リョウブの白い花が満開で、目立っていました。

チョウ目 チョウ類11種

オナガアゲハ、モンキアゲハ、ナミアゲハ、スジグロシ
ロチョウ、キチョウ、ミドリヒョウモン、クロヒカゲ、サ
カハチチョウ、ジャンメチョウ、ベニシジミ、ホリハセセ
リの11種を確認しました。

ガではオオミスズアオ、シャチホコガ、アカヒゲドクガと
いった大型で「触りたくない」ような幼虫がいました。
シャチホコガの幼虫は先月の調査では、ハエトリグモに擬
態していたのに、大きくなると右の写真のように、どちら
が前か分からない不思議な形になっていました（右が頭）。



オオミスズアオ幼虫

バッタ目

山頂ではナキイナゴがまだ鳴いています。まだと言っ
たのは平地ではとくに鳴くシーズンがすんでしまったから
です。他に鳴いていたのは、キリギリスとヤブキリのほか、
ホソクビツユムシです。でもいずれも屋間から鳴く種で
すが、姿を見ることは出来ませんでした。ヒトコブササキ
リモドキは大阪府レッドリストでは準絶滅危惧に指定されて
いますが、山頂では毎年、けっこうな個体数が確認できま
す。尾端の把握器が面白い形をしています。右の写真はエ
ゾツユムシで、1992年以降の確認となりました。



ヒトコブササキリモドキ♂



エゾツユムシ

カメムシ目・コウチュウ目

カメムシ目は13種、コウチュ
ウ目は12種でした。エゾゼミは、
鳴き声、車に轢かれた死体、羽化
殻を確認しました。



エゾゼミ羽化殻



ウスモンオトシブミ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年9月）

2011年9月15日 天候：はれ 調査者1名

ブナ林内の午後1時の気温は25.1℃で、林の外から入った時の気温の違いに驚
かされます。エゾゼミ、ツクツクボウシ、チツゼミ、ミンミンゼミの4種の鳴き
声が見え聞こえました。

チョウ目 チョウ類7種

スジグロシロチョウ、キチョウ、ミドリヒョウモン、ク
ロヒカゲ、アサギマダラ、ヤマトシジミ、ダイミョウセ
セリの7種を確認しました。先月からの違いはアゲハの間
を見なかったことです。



ダイミョウセセリ

バッタ目

個体数が多く目につくのはアシグロツユムシとヒロハネ
ヒナバッタでした。キリギリスもまだ鳴いています。

大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているヒト
コブササキリモドキは、先月に引き続き、ブナ林内で確認
することができました。

同じく準絶滅危惧のセグロイナゴも確認されました。こ
ちらは草原性の種で、和歌山県側の草原が分布の中心だ
と思います。貝塚市内では1995年に蕎原で2個体が採集さ
れて以来の記録となりました。



セグロイナゴ♀



カンタン♂

コウチュウ目ほか

地面では、ヤマトオサムシが目立ちます。他の昆虫の死
体を食べているものもいれば、車に轢かれて死んだ個体が
ムネアカオオアリやクロオオアリに食べられているものも
あります。

大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているオニ
クワガタとセダカテントウダマシを確認することができま
した。オニクワガタはブナの立ち枯れの幹の表面を歩いて
いたものを撮影しました。小型のクワガタなのに「オニ」
と付いているのは、立派な大あごを持っているからです。



オニクワガタ♂



セダカテントウダマシ

付図4（左上）、和泉葛城山昆虫調査速報（2011年7月）

付図5（右上）、和泉葛城山昆虫調査速報（2011年8月）

付図6（左下）、和泉葛城山昆虫調査速報（2011年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年10月）

2011年10月18日 天候：はれ 調査者1名

セミの鳴き声は聞こえなくなりました。ブナ林内の午後2時の気温は12.9℃で、先月から10℃以上も下がりました。昼間でも上着が必要な涼しさです。でもブナ林の紅葉はまだまで、植林したブナの葉が黄色く色づいてきた程度です。

チョウ目（チョウ類4種）

キタテハ、ルリタテハ、アカタテハ、ヤマトシジミの4種を確認しました。タテハチョウの3種は、キロスズメバチに混じて、山頂の落下して熟したナシから吸汁していました。これから成虫で冬を越すために栄養をたくわえる必要があるでしょう。それにしても、黄色い、瑠璃色の、赤色のタテハチョウという和名は、「形や色の特徴+科名」の組み合わせで、命名のお手本です。

唯一見つけたガはフラスズメで、こちらはコナラの樹液から吸汁していました。飛び立った際に「小便をかけたか、セミみたい」と思ったのは、実は樹液だったわけです。「スズメ」と付いていますが、スズメガの仲間ではありません。ややこしいですね。こちらは命名のお手本ではありません。



ルリタテハ



フラスズメ

バッタ目

アシクロツコムシ、クサヒバリ、カンタンの鳴き声を聞きましたが、個体数は先月と比べてかなり減りました。今年はお会いしないかなと思っていたヒメクササキリの写真をようやく撮ることができました。貝塚市内では、まだ山頂でしか確認されていません。



ヒメクササキリ

カメムシ目

9種が確認されました。種数はバッタ目と並んで第1位です。それで卵越冬の種が多いバッタ目と違って、成虫で冬を越す種がほとんどです。カメムシ目は成虫で冬を越す種の割合が高いです。写真を撮れたのは、山地性のエソアカカメムシです。



エソアカカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年11月）

2011年11月8日 天候：はれ/くもり 調査者1名

日向は快適ですが、ブナ林内の午後1時の気温は9.3℃とかなり肌寒くなりました。ブナの葉は黄色ぐらいいは色づいています。でも、ブナ林全体の景観では、まだまだ緑色が勝っています。

チョウ目（チョウ類2種）

キタテハとルリシジミの2種を確認しました。キタテハは、雲がとぎれた晴れ間に、翅を広げて太陽光のエネルギーを吸収し、体温を上げています。来月の調査では、もうチョウの姿を見ないかもしれません。



キタテハ

カマキリ目・バッタ目

カマキリ目は、オオカマキリの幼虫だけを確認しました。この時期にまだ幼虫にいるのでは、交尾・産卵できないかもしれません。山頂は夏も気温が低いので、发育のスピードが遅れたのでしょうか。バッタ目は、ヤマトフキバッタとマダラスズの2種を確認しました。



オオカマキリ幼虫

トンボ目

オツネントンボのみ確認できました。これまで市内では馬場と森の標本がありましたが、和泉葛城山の山頂では初めてです。山に登ってから越冬しようという個体だったので。名前の「オツネン」は越冬の意味で、オツネントンボは成虫で越冬する数少ないトンボなのです。



オツネントンボ

コウチュウ目

3種が確認されました。山頂では普通種のキイロセマルケシキスイがツキヨタケにたくさん付いていました。ツキヨタケは有名な毒キノコで、人が食べると胃腸の中毒になって死ぬこともあります。甲虫には毒が効きません。逆にキノコにとっては、甲虫は孢子を分散してくれる大切な「お客さん」なのです。



キイロセマルケシキスイ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2011年12月）

2011年12月7日 天候：くもり 調査者1名

ブナ林内の午前11時の気温は5.8℃で、先月よりかなり寒くなりました。ブナの葉は落ち、イロハカエデの紅葉もほとんど落ちてしまいました。ガガンボ類が弱々しく飛んでいるのと、葉やキノコ上のヤマトヒムシ類が目立つ程度でした。

ハチ目

冬の曇り空の下、ブナ林内の景観も冬模様となりました。アリたちの活動も見うけられません。弱っているヒゲナガケアリを1種1個体だけ確認しました。



ブナ林内の景観



ヒゲナガケアリ

チョウ目

とうとうチョウ類は1種も確認できませんでした。シャクガの仲間が飛んでいて、フユシャクの仲間かと思ったのですが、よく見ると平地と山地に普通にいるナカオビアキナミシャクでした。チョウ類のように翅を閉じて止まっているのは、たまたまそうっただけでしょう。



ナカオビアキナミシャク

カメムシ目

落葉の裏面にセアカツノカメムシが張り付いていました。カメムシ類は、他のグループに比べて成虫で越冬する種の割合が高いと言われています。落葉や倒木の下に隠れて、これから訪れる山頂の厳しい冬をやり過ごさなければなりません。たいへんです。



セアカツノカメムシ

キノコ対コケ

ブナの倒木上では、ツキヨタケやクチキトサカタケの姿は消え、チャシワウロコタケだけが健在でした。右下の部分にはスギゴケが黄色く変色した箇所があります。ブナの倒木上でキノコ対コケの「静かな戦い」が繰り広げられ、その黄色い部分が陣取合戦の最前線なのです。たいへんなのは昆虫だけではないようです。



チャシワウロコタケ（中央）vs スギゴケ（周囲）

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2011年12月）